令和５年度　第１回山梨県文学館協議会　会議録
日　時：令和５年 12 月１日（金）１３：３０～１５：００
場　所：山梨県立文学館研修室
出席者
　委　員：秋山和江、大塚　茂、仲田道弘、成富耕志、西田　遙、長谷川千秋、
　　廣瀬孝嘉、水石和仁、矢崎茂男、山本久美子、横森一哲

　事務局：（県立文学館）三枝館長、小林副館長、今村次長、高室学芸幹、
　　齊藤資料情報課長、北村総務担当リーダー、中野学芸担当リーダー、
　　野呂瀬教育普及担当リーダー
　　（指定管理者）山口 SPS やまなし支配人、河合 SPS やまなし副支配人
　県観光文化・スポーツ部文化振興文化財課：井筒総括課長補佐、田中主任

・開会
・館長挨拶
・会長選任
　山梨県附属機関の設置に関する条例の規定に基づき、委員の互選により、廣瀬孝嘉委員が会長に選任された。
　また、会長から、職務代理者として長谷川千秋委員の指名があった。
・会長挨拶
・議事
　審議事項
　（１）山梨県文学館協議会運営要綱ほか制定について
　報告事項
　（１）令和４年度事業報告について
　（２）令和５年度事業報告及び予定について
　（３）その他

〇事務局から審議事項（１）について説明し、意見・質問等なく承認された。

〇事務局から報告事項（１）（２）について説明

（委員）

・只今の説明を伺い、スタッフの皆様が色々工夫なさって、いかに集客力を高めようか、いかに文学館を記憶してもらおうかとご努力なさっていることが本当によく分かりました。

・この夏の企画展「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂へようこそ」ですが、私の記憶の限りでは秋に行われていたと思うんですけれど、思い切って夏に行ったのはとても良かったのではないかなと思います。芸術の秋であったり、また文学館の設立が秋だったということなんでしょうか、秋に企画展がずっと行われていたんですけれど、夏こそむしろ皆様、県内外の皆様が訪れやすいのではないかなと思いますし、特にお子さんにも興味を持ってもらえるような企画展だったので、この夏に思い切って実施したっていうのはとてもいいことではなかったのかなと思います。

・今までのものを更にバージョンアップさせるように、固定概念を、もちろん踏襲することも大事なんですけれども、また新たな側面から見直して、更にバージョンアップを図ることもいいのかなと思いましたし、そのようになさっていること、素晴らしいと思っております。

（議長）

・普段、秋にやっている企画展を夏に行い、しかも子どもさんをターゲットにした。家族総ぐるみでおいでになっているような状況を私も拝見いたしました。よかったと思っています。

（委員）

・非常に活字を読む方が減ってきている。その中でやはり文学館の役割として、文学を読む読者を広げる役割、この中で教育普及、学ぶということに当たるのではないかなと思っているんですけれども、今、私ども書店商業組合、山梨県、県立図書館の３者が集まって、山梨読書推進活動というのを行っております。阿刀田高先生が提唱して始めたものですが、その中で、やっぱり本を読んでない世代に活字を読んでもらう、文学を受け入れてもらう必要があるのではないかなと、そういった活動を行っておりまして、例えばスタンプラリーですとか、金田一館長の講演であるとか、ポップ展であるとか、ぜひそういうものに文学館さんの方からも参加していただいて、その活動を広げていかれたらどうかなと思っています。

・例えば山梨スタンプラリーですが、書店、学校図書館、県立図書館、市立図書館、そういったところを回りましてスタンプを集めますと、印伝のしおりをプレゼントしておりまして大変好評です。その中にやはり文学館も入って良いんじゃないかなと、やはり文学館が入ることによって、この素晴らしい文学館の資料とか、設備を幅広く見ていただける、そういった機会になるのではないかなと思っていますので、山梨読書推進活動に来年度から参加していただきたいと思っております。

（議長）

・読書推進活動に文学館も参加していただけないかという要望でございました。忙しいのにどうかなと思いながらも、幾つかが連携しながら活動するということも大事だと思います。

（委員）

・質問なんですけれども、先日山日新聞に大きく載った富士技術支援センターで「甲斐絹」という文字を文学作品から検索して、明治時代ですか、約 60 か所に使われていて、それで「甲斐絹」の時代背景を発表したみたいなのがありましたけど、あれはそういうふうにデジタル化されているんでしょうか。

（事務局）

・直接文学館での調査というものではなかったので、直接当館からの情報提供ということではなかったかと思います。

（委員）

・私は県立大学でワインの歴史を教えているんですけれども、色々な資料収集でですね、今はもう国立国会図書館もこの今年 4 月から題だけではなくて中身も全部デジタル化してあるんですね。そうすると葡萄酒とかそういうものが、江戸時代の滑稽本なんかに載っていたり、そうすると歴史が変わってくるんですね。ですから貴重資料なんかは、ぜひデジタル化して公開をして、一般の人の研究に広く提供していただければということを思っております。

・そして展覧会を見てもですね、写真を撮ってはいけないということがありますが、著作権の問題もあるかも知れませんが、今、世界の流れは、ルーブルにしてもニューヨークにしても、全部撮ってもいい、しかも高精細でデジタル化されて、それを二次利用、商業利用しても無料ですよっていう流れでですね、美術館のブランド力をあげて集客を図っていますので、可能であるところは原本をどんどんデジタル化して、公開をして、二次利用してもらう方向でですね、文学館自体のブランド力を上げていく必要があるんじゃないかなと思っております。

・そして、もうひとつはＡＩによる古文書の解析ですね。昔の人の字は分からないんですが、今、ＡＩがどんどん解析していただけるようなので、そういうふうな講座とかしていただければ、真っ先に参加したいと思います。

（事務局）

・古文書については博物館の方で、古文書講座というのを定期的に開催しています。

（委員）
・それは難しい内容のもので、今、ＡＩを使えば、すぐに分かるようになってきている。

（事務局）
・歴史資料としての古文書というのは、扱う範疇ではないので、ただ、文学者の文学資料としての、いわゆるくずし字ですとか、そういったものについての、ということになりますと文学館の範疇になりますので、参考にさせていただくお話かと思いました。

（議長）
・新しい時代の中での可能性について提案をされました。じっくり考えていただければと思います。

（委員）
・展示・企画に限らず、メディア等への情報発信やキャッシュレス決済への取り組みなど、県民の皆さんへの利用価値を高める企画を多角的にされていることを初めて知りまして、皆さんの視野の広さに関心いたしました。特にホテル関係者の招待ツアーなど、今に合った、流れに合った取り組みというのも、皆さんの時代に対する目の向け方に非常に感心いたしましたし、引き続きこのような、流れに沿った取り組みをしていただき、我々のようなメディアにも、引き続き情報をいただけたらなと思います。

（議長）
・多角的な活動、今風な取り組みに賛同しているというお声がありました。

（委員）
・実施されている内容ですとか、成果というのが大変よくわかり勉強になりました。その成果とか数字というものが、いわゆるどのくらい多いのかとか、強いのかとかが分かりかねたので、例えば海外も含め、他の文学館及び民間の施設と比べて、山梨県立文学館さんがどういったところに強みを持っていて、どういったところに弱みですとか課題を持っているのかというのを、質問としてお聞きしたいなと思いました。

（議長）
・難しい質問ですが、どんなところに強みがあって、どんなところに弱みがあるのか、課題があるのか、何かお考えになっていることがあるかというご質問だと思いますが、どうでしょうか。

（事務局）

・確かにそういう視点での自分たちの位置を確認するということも大事なことと思いましたけれども、本日お示しできるような、他の施設と比べての数字というものは用意がございません。県立の文学館というのが、そもそも日本の国内においては、まだ１０件ほどで、それ以外には市町村立、私立、あるいは個人の記念館とか、そういう施設がそれぞれで規模や性格というものも異なるものになりますので、一律の比較だけでは叶わないところがあるかと思いますけれども、そういった視点は注視したいと思いました。

（委員）

・感覚としては、見た感じだと企画とか頑張られているのかなと感じたんですけど、何か企画をすごい数やっているみたいな感じなんでしょうか。

（事務局）

・県立館の一つとしましては、館のひとつの規模としましても、職員数ですとか、またその今おっしゃっていただいたような、展示事業、普及事業等の数としては、感覚のお話で申し上げますと全国の文学館の中でも大きい規模で展開している施設だなというふうには自負しております。

（委員）

・もう一点だけ、この資料のリーフレットにもありますタグラインですか、「そのことばのつづきへ」っていうタグラインがあまり意識して見たことなかったんですけれども、今回改めて意識してみると、非常に素晴らしいタグラインだなと思いました。タグラインっていうのは、いわゆる中長期の目線を持って立てた方針、その意志を言語化した部分だと思いますので、指定管理の方の方針とか目標も、このタグラインを意識されて作られていると思うんですけど、何かそういったところが統一されて各企画にまで落とし込まれて表現をしていけると、長い目で見た山梨県立文学館としての特色みたいなものに繋がっていくかなと思いましたので、ぜひ期待しております。

（事務局）

・他館との比較ではないんですけれども、資料９頁に開館以降の常設展と企画展の数字がございます。令和２年度から４年度はコロナの関係で観覧者数が少なく、更に令和４年度は休館という事もありましたけれども、令和５年度は、先ほどから何回か話しに出ましたが、銭天堂では２万人の来館者がありました。やはりお子さんが夏休みにということで、家族向けにやることによって、県外からも来ていただいた。やはり改正博物館法にもありますが、この芸術の森公園、文学館だけではなくて美術館も含めて、観光とか文化という形で地域を盛り上げていく、そういう視点でも総合計画とかでも目標設定をしていくことに

なっており、色々分析をしないと見直しもできないと思いますので、今後に活かせるような、計画、ＰＤＣＡサイクルとかを、それぞれの館で確立していく必要があるのかなと感じております。

（委員）

・出前授業をしていただいたり、色々な企画をしていただいている中で、子どもたちも参加できるものも考えてくださっているなと思います。特に親子で参加するというところもあって、近々１月２８日には、「声に乗せて味わう児童文学」があり、色々なところから文学に迫ろうという企画を考えてくださっているなと思っています。

・国語の中では文学的文章、説明的文章という感じで分かれていて、以前はかなり文学的文章の方をやっていて、最近は説明的文章の中に色々な情報、グラフ、図とかある中で、子どもたちがそれをどう読み取って、活かしていけるか、それが生きる力の中で大事なんだということもあって、全国学力学習状況調査の中に出てくるのもそういう説明的文章の中に色々な資料があって、それをどう読み解いていくかっていうことが非常に多くて、そこのところも大事にしなさいっていうことなんですけれども、やっぱり子どもたちが文学の世界に触れたりとか、ファンタジーの素晴らしさに酔いしれたりとか、自分の人生を考えていくとか、そういうふうなことで非常に文学というのは大事だなと思っているところです。

・この銭天堂のような企画には小学生もきっと飛びついたと思います。質問にもなるんですが、山梨にゆかりがある文学館ということで、ゆかりがあることをしていくんですけれども、小学生となると、今、光村図書の教科書を使っているということで、子どもが触れるとなると、工藤直子さん、あまんきみこさん、椋鳩十とか、その辺りということで、銭天堂もそうだったんですけれども、これまでそんなふうな企画があったかも知れませんけど、普通に小学生が触れているような文学から企画されることを期待したいなということと、科学館とか博物館とかいうところは、学年で結構子どもたちが行くんですけれども、教師への講習会もしていただいているようですが、小学生が学べるようなプログラムというものがあるのか、というような辺りを聞かせていただきながら、小学生がまた文学に親しめるような企画を続けてやっていただきたいなというふうに思います。

（議長）

・小学生向けのプログラムなんかもあったらいいなという観点でのご要望だったと思います。

（委員）

・銭天堂の展示ですが、夏にいつも子ども向けの特設展をやっていたなと思って、今回もそんな形なのかと思っていたのですが、企画展ということで、すごい思い切った施策をされ

たなと、文学館としての考え方というか、そういう柔軟性をとても感じました。

・私は子どもと一緒に来たりするんですけれども、一葉展とかで難しいというか文字が良く読めなかったりとかする資料でも、クイズなんかを取り入れて楽しみながら学べるというところも良いなと思っています。中学生の女の子なんですけれども、文豪が好きで、文学の作品よりも、人生とか生き様みたいなことに興味があって、文学資料っていうところだけじゃなくて、そういった人物像とか、そういうのも見える展示で楽しめるのかなというふうに思いました。スマホでＱＲコードとか何かにかざすと人物が現れたりとか、動く、語りかけてくれるとか、そういう仕掛けなんかあっても、興味を引くんじゃないかなと母親目線ですが感じました。

（委員）

・冒頭の館長のお話の中で、文学の境界線の話がありました。私どもの文芸協会が発足して２６年経ちまして、戦前に文芸協会と名の付く協会が３回立ち上がったようです。いずれも短命で数年で終わっています。ですから２６年というのは非常によく続いたなという気がするんですが、実際は、発足当時百十何名いた会員が今、３３名しかいません。発足当時一番若かったのが私でした。今も私が一番年少です。６２なんですけど。それが実態なんです。つまり文学に限らず、文芸に限らず、文化団体はどこも若い人が入ってこないという共通の悩み、高齢化という悩みを持っている。実は、明後日の日曜日に北杜市の武川のホールで白州在住の小説家、樋口明雄さんというライトノベルの作家がいますけれども講演をしてもらいます。文芸協会としては初めてのライトノベル関係の方の講演になります。大先輩の方々からかなり批判をいただくんじゃないかと思いますけど、でも、そうでもしないと若い人たちは来ないんですね。ここで部屋を借りて、例えば太宰を論じてもらってもたぶん数名しか集まらないというのが実態だと思います。ですから私たちは、これからの継続可能な会の運営のために、若い人たちにいかに集まってもらうかということを考えて行きたいなと考えています。それで一つ教えていただきたいのは、小説創作教室に高校生枠を設置して高校生に入ってもらったという話、非常に良かったという話しをしたんですけれど、これらの教室は無料ですか、受講料は。

（事務局）

・無料です。

（委員）

・同じようなことを考えてまして、バッティングしないように相談しながら進めていきたいなと思いました。それから最後にもう一つ、私は昨年 3 月まで小学校の校長をやってまして、長坂小学校に出前講座というのがありまして非常に興味を持ったんですけれども、どんな内容だったんでしょうか。

（事務局）

・出前講座では、小学校、中学校、高校と伺わせていただいているんですけれども、小学校は放課後児童教室になりますが、今年度は主に小学校では俳句のことについて、中学校では館長においでいただいて短歌教室をしております。高校では学芸員の方と一緒に行きまして、太宰治のことについてのお話をしたりしております。

（委員）

・コロナが終わって積極的に活動されていることがよく分かりました。そんな中で、当社の番組の方もご利用いただいているということで感謝申し上げたいと思います。テレビの力というのがですね、最近メディアも多角化してまして、新聞もそうですけれども、なかなかどこまでリーチしてるのかっていうのも分からない時代になってきておりまして、我々も今踏ん張りどころで、あの手この手でやっているところでございますけれども、ＳＮＳでの発信なんかも取り組みをされているということですが、今、ＤＸの世の中で何が正しいのか、何をやればいいのか非常に難しいところだと思います。我々、オールドメディアと言われていますけれども、ＳＮＳの世界も広がりそうで実は広がらない、特定の興味を持った分野にはかなりフォロワーは集まるんですけれども、興味のないところには全く来ない、ある意味閉鎖的な世界でございます。まとめますと、オールドメディアと新しいメディアを組み合わせる、それから、教育現場、それから本屋さんもそうだと思いますけれども、そう言ったところで裾野をかなり広くしていかないと、なかなか来館者の皆さんもどうなのかなというような思いも逆にしておりますので、もう一度裾野を広げるようなご努力を、大変かと思いますけれども大切なのかなというふうに感じました。

（議長）

・さらに裾野を広げる努力をというお願いでした。

（委員）

・文学館に長くお世話になっている者として、文学館の目的とか意義ということを考えてみますと、一つは県民に広く文学について親しんでもらうということ、そしてもう一つは専門的な展示、専門的な資料を収集されているんですね。山梨にゆかりのある著名な作家、芥川や太宰のような著名な作家から、山梨で活動されている方など、非常に高い専門性を持って資料を収集しその文学研究を推進されていて、全国から研究者がこの文学館に来て調査をしているというような実績もあります。その二つの、矛盾するようなんですが、二つの方向に目的と意義があると思っておりますので、今回の活動、今回の取り組みはこちらの方の取り組みなんです、今回の取り組みは、ちょっと来館者数は減ってしまうけれども、専門的な展示をしているんです、ということが言えるようになっていくと、非常にいいのかなと思います。そのために三つ、勝手ながら思ったことがあります。

・一つはニーズに応えるということです。今の二つの目的に対して、ベクトルがある中でいったい今回はどのニーズに応えることになるのか、というような状況、それが数値というところにも現れてくるでしょうし、また、利用した方のアンケート、一つ一つの声の中でそれを拾っていく、ニーズに応えてどんなことをしていくかっていうようなことが出来るかと思います。小学校、中学校、高等学校との連携をたくさんされていることも今回分かりました。その中で、例えば文学ですと国語が密接に関わるのですけれども、その国語の先生方とどういうふうに連携がより組めるのかということ、なども先生方忙しいので、先生方をサポートするような形で文学館が活動できれば非常に広がるのかなというふうに思います。
・二つ目ですけれども、効果的な広報というのがあるかと思います。先ほどオンラインプレスリリースというのがあって、全国に文学館を広める活動をされている、観光と上手く結びつけてなんていうお話があって、非常にいいなと思いました。その辺のところは分かりやすいというのが一つ、それから今回の目的が何か、対象は誰なのか、そしてその手段をどうするのかといったところを整理して、効果的な広報が行われると活動自体がグンと広まるし、利用していただけるということがあるのではないかと思いました。今回資料にはありませんでしたが、Ａ４を畳んだサイズですかね、三枚折りの活動リーフレットが文学館にありますよね、あれがとっても分かりやすく、きれいで一目でどんなことをしてるか分かりますので、そんなものも皆さんに配布してもいいのかなと思いました。
・三つ目は、先ほどから色々な委員の方から意見が出ていますが、ＤＸ化です。デジタル化ということを文学館の中でも上手く進めていくと、例えば業務の効率化にも繋がりますし、効果的な広報も出来るかと思います。文学館は何しろ紙の良さ、紙の冊子の良さ、紙の本の良さ、というところが根底にはあるのですけれども、そのよさをデジタルで伝えるということも可能かというふうに思いますので、ぜひＤＸ化も進めていただければと思います。

（議長）
・まだまだご意見等があろうかと思いますが、今回は資料を事前に送っていただいて、皆さんがじっくり目を通す中で色々な感想やご意見をいただいたと思います。今後も~~そ~~このような形で進められれば良いのかなと思います。
何か他にこれだけはどうしてもというようなことはございますか。
特になければ議事は以上で終了いたします。ご協力ありがとうございました。

議事終了